

一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会

平成 28 年度 第 1 回常務理事会 議事録

開催日時：平成 28 年 7 月 15 日（金）18：30～

開催場所：岐臨技事務所

出席者：兼子、浅野、棚村、帖佐、佐藤、清水、高崎、柴、乙訓、高木

欠席者：なし

議長：兼子

議事録：高木

高木部長より庶務部からの連絡事項があった。

理事会及び常務理事会開催通知は月初めに岐臨技事務所よりメールで送信します。各種連絡事項・各部報告書・理事会議案書は開催日の 3 日前までには岐臨技事務所にメールにて送信願います。また各種連絡事項に関しては発生した時点で庶務部から各理事・監事宛にメールにて送信します。

6 月 29 日に日臨技より岐臨技に資料の送付があった。内訳は以下のとおりで各理事及び監事にメールで送信した。

- ① 会費の送金について、平成 28 年度入会金 252,000 円(24 名)
- ② 平成 28 年度定時総会議決権行使書回収手数料送金 22,350 円
- ③ 平成 28 年度生涯教育推進研修会助成金 85,000 円

武儀医師会より岐臨技に名義使用で承諾した小西博之氏の講演会資料が届いた。チラシ 100 枚は 7 月の定期便で各施設に発送、チケット 30 枚は中濃地区理事、乙訓に分配を依頼した。

兼子会長より日臨技全国幹事長会議の報告があった。

官島会長からは検査技師の業務拡大や、検体採取の厚生労働省指定講習会受講者数が会員の 1/3 程度になったことなどが挙げられた。

官島会長が参議院選挙に当選した。岐阜県は会員の 3 倍の票を獲得することができた。

予算編成では生涯教育助成金として 20,000 円+500 円×30 名（35000 円）×20 回を要望した。

検査と健康展の開催日を 7 月若しくは 8 月頃に変更できないか要望してみたが無理であるという回答であった。

CT・MRI 時の造影剤投与・抜糸・止血について、MRI においては検査技師もできる様に法律改正を依頼した。これについてはまだまだ先ではあるが状況を見ながら拡大できるようにタイミングを図りたいとの回答であった。

兼子会長より日臨技支部長会議(平成 27 年 7 月・10 月)の報告があった。

日臨技支部研修会で 2 日間開催の研修会では 1 日のみの参加は今後認めない。またアルバイトの起用は薦められない。

研修会のテキスト挨拶文は支部長のみとする。県会長はなし。

精度保障施設認定更新料の値下げは行わない。

検査と健康展は主催でないと助成金は支給しない。

平成 28 年度中部圏支部学会も Web 抄録を検討中である。

検査と健康展は 11 月が検査月間となっているため 11 月での開催が原則ではあるが、1 ヶ月程度の変更であれば考慮する。

兼子会長より日臨技支部長会議(平成 27 年 12 月)の報告があった。

アルバイトのうち事務的なアルバイトの雇用は認めない。生理検査の被験者としてのアルバイトは認める。暫定自給は 1,000 円とか 4 時間以上 5,000 円、でどうか。

研修会テキストは有益と認められれば Power Point も可とする。

標本貸出しルール、残余検体利用のガイドラインは日臨技で検討中である。

研修テキストの広告料は製本費の半額以下とする。

輸血細胞治療部門の日臨技支部研修会は指導者が対象であり、受講者が集まらず赤字となる場合がある。そのため輸血細胞治療学会との調整を図りたい。

支部学会・研修会が赤字でも日臨技は補填しない。兼子会長からは岐臨技ではある程度の補填も考えているとの発言があった。

講師料を支払う時マイナンバーを取得しなくてはならない場合もあり。年間 5 万円以上の場合。

平成 28 年度 1 月の臨時総会は 2/3 以上の議決権行使があり成立、定款も変更となった。岐臨技の行使率 77.07%。ご協力ありがとうございました。

兼子会長より日臨技支部長会議(平成 28 年 3 月)の報告があった。

日臨技支部長研修会は 2 月上旬までに開催。決算など書類提出期限は 3 月 10 日必着とする。

支部研修会運営マニュアル(改正版)を 4 月に日臨技 Hp に掲載。

検体採取に関する厚労省指導者講習会は 1 日目が 11:00 開始に変更となる。

兼子会長より中部圏支部幹事会(平成 28 年 6 月)の報告があった。

IFBLS については浅野副会長よりキャンセルしたとの報告があった。

支部研修マニュアル・出納帳が変更となる。日臨技 Hp に掲載。Hp 会員専用サイトの運用マニュアルに掲載される。

新人研修会実施を推進しているが単独開催は困難と思われる。

災害時支援対策マニュアルを日臨技で作成中である。

中部圏研究部門長が決定した。岐阜からは輸血細胞治療部門の八木良仁さん（県立多治見病院）が任命された。

平成 28 年度中部圏支部研修会の予定について、岐阜県は平成 31 年度に中濃地区が担当となる。浅野副会長より 2 年前までには会場の場所・テーマをある程度決定し、愛知県と三重県を視察していただくことになるため、実質今年度から活動をはじめていただきたい。との発言があった。

柴理事より平成 28 年度秋季拡大研修会・東濃地区理事会での報告があった。

東濃地区では今年度秋季拡大研修会と県学会を予定している。今のところ講師は未定であり学術部長に依頼したところ、テーマが微生物と遺伝子であるため帖佐学術部長から部門長に話をさせていただくこととなった。

実行委員長は市川浩良理事にお願いした。また実行委員の選出については地区役員 3 名に加え各施設より 11 名を予定しており、8 月上旬に第 1 回実行委員会を開催する予定である。今回、会場費が必要となり予算としては、前日の 34,300 円と当日の 49,000 円が掛かる。協賛企業は 5 社を予定し現在リストを作成中である。兼子会長からは製本費が 100,000 円となっているため予算が増えた場合、協賛数を検討してほしいとの発言があった。柴理事より市民公開講座は市川理事に担当を依頼しているが、この案件については土岐総合病院からはフクダライフテックでという意見もあり、お願いしたいとの発言があった。棚村理事よりランチョンセミナーは希望する業者が 2 社あり推薦していきたいとの発言があった。

帖佐部長より学術部からの報告があった。

新人サポート研修会参加報告と会計報告があった。新人サポート研修会では一般会員 70 名、会員講師 7 名、非会員 10 名、学生 33 名、合計 120 名の参加があった。

今年から会場警備費が掛かるようになった。収支は-73,644 円の赤字であった。

春季拡大研修会は参加者 96 名、研修会等協賛金 2 社、広告料 4 社で収入が 306,000 円であった。支出は印刷製本費、支払負担金、諸謝金、通信運搬費、旅費交通費等で 559,011 円、収支は-253,011 の赤字であった。

検査説明相談の研修会参加状況について、参加者 35 名の報告があった。岐阜県の技師会員数の 10%が目標であり、理事の中で参加希望があれば追加も可能であり是非参加してほしい。開催日は 7 月 23 日・24 日の 2 日間で大学病院多目的ホールで行われる。兼子会長より非常にためになる研修会であり是非参加してほしいとの発言があった。

平成 28 年度岐臨技研修会では外部講師として岐阜大学医学部付属病院の副看護師長

(感染管理認定看護師)に講師を依頼した。謝礼金については常務理事会で 15,000 円とすることで承認した。例として…技師長 20,000 円、副技師長・看護師長 15,000 円・技師 10,000 円とする。

岐臨技会員講師の支払い料金改正案については部門長会議で 1 時間以上は 3,000 円、30 分以上 1 時間未満は 2,000 円、30 分未満は 1,000 円とする案が多数を占めた。常務理事会では浅野副会長からスケジュールの枠内で良識的に考え、講師に 30 分または 1 時間で話をしていただくように説明すればいいとの発言があった。これをもとに今回の常務理事会に於いて本日より學術部で研修会を受理したものより講師料としてこの改正案(1 時間以上は 3,000 円、30 分以上 1 時間未満は 2,000 円、30 分未満は 1,000 円)を施行することで承認した。改めて 8 月の理事会で報告する。

8 月予定の輸血部門研修会は発送が間に合わないため、常務理事会において今回は中止とし、期日を変更していただくことで承認した。

佐藤部長より精度管理部からの報告があった。

6 月 15 日に岐阜県の精度管理受付を終了した。合計 75 施設の参加があった。今後の活動については 8 月 28 日に資料を送付し、翌日には各施設に資料が届く予定でありそれ以降の実施となる。

清水部長より組織調査部からの報告があった。

検査と健康展については 11 月 20 日を予定している。会場はマーサ 21 内のマーサスクエアで行う予定である。現在各部門長に企画のメールを送付し企画内容と必要物品・参加人員を聞いている所である。9 月中には日臨技に見積りのメールを送る必要があるため 8 月中の返信をお願いしている。返信があった部門で具体的に企画が決定しているのは今のところ血液部門のみで、昨年と同様のパネル展示を行うようである。また昨年は血管年齢と骨密度を行ったが、もし今年もパネル展示が少ないようであれば何か他の企画も考えたいので、各部門より沢山の企画を出していただくよう依頼した。以上のスケジュール内容について常務理事会で承認した。

兼子会長から健康展の臨時診療所として保険所に登録申請をお願いします。との意見があった。帖佐部長よりパーテーションはどのようになっているか、医師の診察ブースでは上部・天井はどうするかという意見があった。清水部長からは医師の面談箇所では上から見られないように工夫したい。という返答があった。兼子会長より理事の方でどなたか当日、医師の診察前に行う問診表のチェックをお願いできないか。是非やってみたい方があれば申し出でほしいとの発言があった。

大垣市 HIV 活動を 11 月 19 日に岐阜経済大学で予定している。検査と健康展の前日になるため組織調査部ではマーサの準備があり、西濃地区の理事の方をお願いしたいと思う。

西濃保健所のムラキ様には技師会で参加する旨はお伝えした。

大垣市市民健康広場については、昨年と同様フクダ電子より血管年齢測定器・ダイナパルス 2 台・日本光電より骨密度測定装置・ビーナス 1 台のレンタルをお願いした。あとはその場で配布できるパンフレット等も集められたら、当日の物品として利用したいと思う。以上のスケジュール内容について常務理事会で承認した。

高崎部長より広報宣伝部からの報告があった。

会報誌についての説明があった。広報宣伝部の部員は今年度、高崎(広報部長)・種村(岐臨技事務)・松浦(西濃地区理事) の 3 名で活動していく。活動部員については常務理事会で承認した。今後は会場の写真撮影等で協力していただきたいと思う。

会報誌の発行については、第 1 号を 8 月 20 日のメール便に間に合うように作成していきたい。第 2 号は 10 月をめどに全国学会をテーマに発行していきたい。第 3 号は 12 月をめどに秋季拡大研修会・検査と健康展をテーマに、第 4 号は 1 月には年頭の挨拶を兼子会長にお願いしたい。第 5 号は 3 月で県学会での報告を考えている。投稿願いは発行月の前月 1 日より依頼、原稿締切りは発行月の前月末日、内容確認と校正は発行月の理事会日、但し理事会日が不定期であるため間に合わなければ pdf ファイルで各理事に発送し確認していただきたい。会報誌の発送は発行月の 20 日とする。以上のスケジュール内容について常務理事会で承認した。

平成 28 年度第 1 号の記事は、年初の挨拶は兼子会長にお願いした。新役員に就任しての挨拶は学術部の帖佐部長にお願いした。旧役員の挨拶としては諏訪先生にお願いした。新人サポートセミナーを終えての挨拶は近藤先生にお願いした。新人サポートセミナーに参加しては近藤先生に紹介して頂く予定である。春季拡大研修会・総会を終えての挨拶は松浦先生にお願いした。春季拡大研修会・総会に参加しての挨拶は松浦先生に紹介していただく予定である。功労者表彰をうけての挨拶は兼子会長からの意見で代表者として 1 人の方をお願いすることになった。GUMS フォーラムの紹介は、岐阜医療科学大学の方で卒業生を対象に学園祭のときに開催されるため、これについては高崎広報宣伝部長から紹介していきたい。Hp 紹介・寄稿募集については、兼子会長より空きがあれば加えてくださいとの意見があった。各地区の検査室紹介については個別に声をかけていきたい。以上の記事内容について常務理事会で承認された。


兼子会長より広報誌が完成したら岐臨技 Hp にカラーで掲載してください。との意見があった。

柴部長より渉外部からの報告があった。

岐臨技 Hp 上、岐臨技の規定にある法人対応部の名称となっていた箇所を総て渉外部の名称へと改正した。

前年度法人対応部長の鈴木先生が公益目的支出計画実施報告書を6月22日に県へ提出。7月11日に一か所の訂正依頼を受けたが訂正後再提出した。現在返答待ちである。帖佐部長より岐臨技Hp上で岐臨技規定の内容が今回変更されたが、何処がどの様に変更したのか解りづらいとの発言があった。兼子会長より岐臨技規定が改正された場合、何処がどの様に変更したか解りやすくするため、旧…新…とか変更箇所…を今後付けてくださいという発言があり柴部長はそれに了解した。

会計部では兼子会長より5月分までは会計確認が終わり問題なしとの報告があった。

議長 兼子 徹 

議事録署名人 浅野 敦 

議事録署名人 棚村 一彦 